

日本の海賊船

海賊の始まり

日本の水軍（今の海軍）は古く、沿岸の住民が水上兵かとして使われ、大和政権は海沿いの豪族を、安土時代に舟の荷物を守る海賊が現れ、平安後期にはは事に當つていく。海を通つてお金を求め、海を航行し、用心棒も行う海賊がいた。また、合戦各地に数多く水軍がいて、大名が海賊をやとうにと考えた。戦国時代、大名は海賊を家臣にしていき、水軍へと変へていった。秀吉は海賊禁止令を出し、今までの海賊が水軍となり、戦に出兵に投入された。家康は海賊出身大名の内隊に移動させ、海賊の時代は終わったが、水夫としては幕末が活躍するところになる。

大鬼水軍

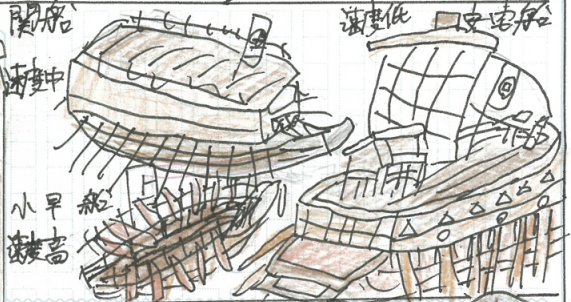
九氣水軍は志摩半島
 (三重)を拠点に活動
 して、富嶽として
 勢力を伸ばしていた。戦
 国時代初期は伊勢北畠
 氏に仕えていたが北畠
 氏が弱くなると細田に
 仕え、北白河を信長が攻
 めると九氣嘉隆は信長
 の助力が志摩を手に入

れた。その後鐵甲水軍として伊豫重兵の一向一揆を討ち、本願寺破れぬが鉄板を張りつけた鉄甲船で村上水軍を追ひ打ちぬぎに活躍した。信長没後は秀吉に従い、朝鮮出兵がば水軍の中核を充つた。そして秀吉は大名としての認められ、紀伊半島の海を支配し、肥前佐賀の二つの城を築いたのもその経緯からである。

茅寧西中學校
1年A組
平岡 瑛士

村上海賊

村上海賊は広島と愛媛の境の海で活動し、因島・来島・能島村上の三つの家がある。彼奴は丸に上文案などがある。船の破壊、略奪



倭冠

倭寇とは中国・朝鮮地域を海賊や密貿易を行つた人々の二つで、前期・後期に分かれる。前期倭寇は十四・十五世紀で、主に北九州の人々で構成されていた。南北朝の動乱で取引絶えたりしたため朝鮮半島の内地部まで侵入し、朝鮮の国・

抜た。その後九龍は休
 閑な厚が二つに分かれ
 西軍についた素降は白
 雪、また二つに分かれ
 肉陣に斬封、水軍とし
 ての歴史は消えるが池
 田船を二排水との縁が
 けは消え去った。



いかにわりに運輸料を以て、漁業者をしてかき奪らしてゐた。祖先は辰野の村上氏とされ、また村上天皇の子孫と云ひう。因島村上氏は因島を本拠とし、戦国時代は伊予の河野、備後の山名、中国の大内・毛利に協力した。その後関ヶ原が西軍につく毛利の家臣となった。

高麗が軍を出し、倭の拠点とする対馬に侵攻する事になった。明は密に倭に貿易の見返りに倭寇の鎮圧を要求し、さらに朝鮮王国が対馬侵攻をしたため大名は倭寇を取り締まり、前期倭寇は消えていく。後期倭寇は十五、十六世紀で、私貿易を行つた中国入りが構成され、大船の襲撃を行つた。この時、来島村上氏は来島を本拠とし、鞆国は河野氏に味方した。味方の味方にあり、大名家として海上が活動をした。陸部へは、大分の内陸部へは、新野に、能島村上氏は能島周辺

編輯後記

日本の水軍や海軍に
ついて調べてみると、
海軍はすくからうにお
くまでを生きていくた
めの仕事であるのだと
思った。帝國「日本」
にとつて重要なる海の歴
史も、これがこゝは調べ
ていきたい。

